

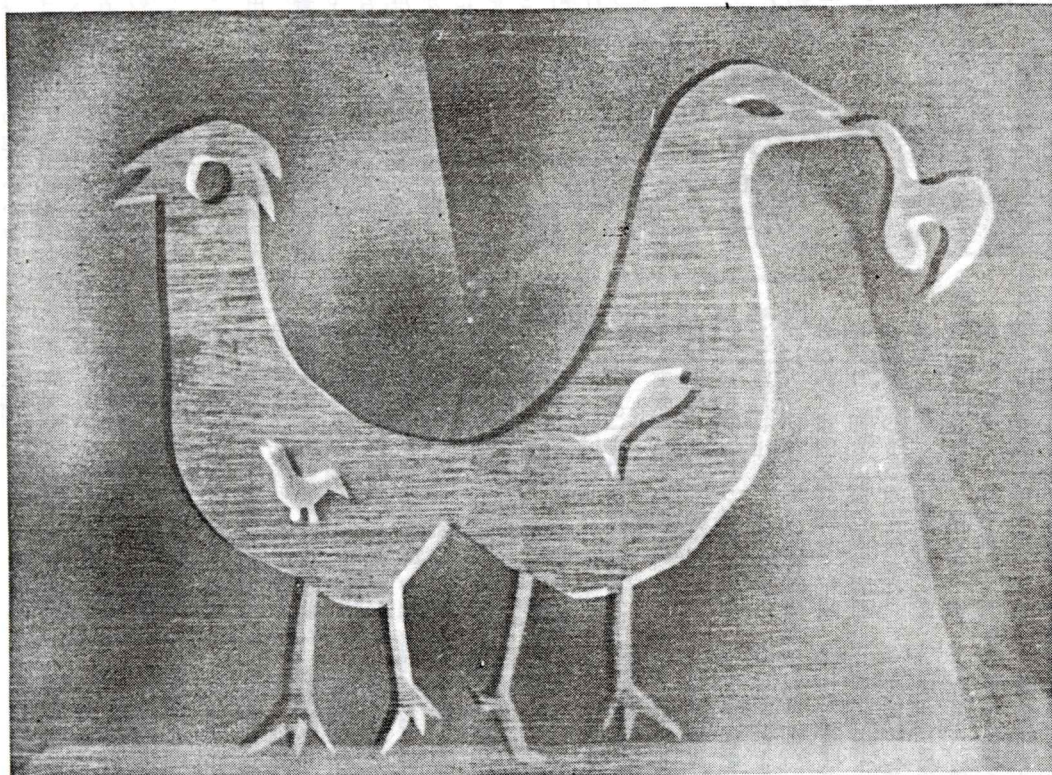
みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 5 NO. 2

昭和53年7月20日発行
編集・発行人 市原 正夫

〒280
千葉市中央港1丁目10番1号
☎0472-42-8311(代表)



瑛 九「鳥」

観潮台

いまうれしい予感にひたっている。美術館の構内に浅井忠の巨大なブロンズ像が建立されるからである。

ことしの秋に開催される県展が、ちょうど三十回だというので、県美術館（浅見喜舟会長）が会員の総意で、記念事業のひとつとして、本県佐倉藩出身で近代日本洋画の本道を歩んだ先駆的巨匠・浅井忠の業績顕彰を期し、あわせて本県の芸術文化のシンボルにすることを決した。

県美術館の計画がすすみ資金が続くうちに、ありがたいことに県内各地に波及し賛同者が多くなり、浅井忠像建立委員会（茂木啓三郎会長）という県民的な組織に結集し、浄財を持ち寄って理想的に完成させようと、文字どおり輪が拡大した。

こうして、制作者に彫刻家の大須賀力氏が指名され、募金と平行して基礎的な調査や試作が展開している。県美術館の計画どおりといえば、ことしの十一月には美術館正面広場に、浅井忠像が県民の浄財で誕生することになる。画期的なことである。

（高橋在久）

本館初の企画

用と芸の美の 書跡の展観

房総の書の歴史をたどると、墨書土器などから奈良時代に源流を求めることができ、文字は長い間、皇族・貴族・高僧など上流社会の中で活用され、一般の人々には縁遠いものであった。

しかし、江戸時代以降は、幕府の文教政策などの影響により一般化し、実用から装飾・純粹な芸術面にまで、その美も多彩になり、房総の地にも書とかかわりのある多数の儒者・文人墨客があらわれた。今回の企画展覧会では、江戸時代から明治時代にかけての、書家・儒者・学者・文人（歌人・詩人・俳人）に焦点を

しぼり、房総の地にかかわりを持ちながら、文化の発展につくした先駆者の作品を集め、作者の遺風と書跡をしのび、用の美と芸の美の追求の機会とし、書芸の振興に役立てたい。

出品作家と作品の紹介

書家では 柳田正翠（寛政五）明治二一）佐原市出身。名を貞亮、字を節夫という。江戸に出て儒学を学ぶ。生来書が得手で、初め趙子昂、のちに王羲之の風を学び大成する。東京亀沢町に私塾を設け名聲が高かった。書幅四。大村、焦雨、天保元、明治三、四）九十九里町。まくり二点。

房総の書芸展

江戸から明治にかけての書家・学者・文人の書跡による

七月二十日より八月三十一日まで

香川松石（弘化二）明治四四）千葉市。書幅一。以上三名。

歌人では 神山魚貫（天明八）明治一五）成田市。通称三郎左衛門。又は無境庵とい

った。古人の歌書により独学し、苦勞して八代集を暗誦した。歌風を定家に似せ、次いで貫之に私淑して独自の格を成した。椿仲輔・伊能穎則・鈴木雅之・林保綱・三橋鶴彦などは彼の門人である。書幅一、扇面一、短冊七。海上嵐

（明治九）大正二一）山武町。書簡二、短冊二。以上六名。詩人では 鱸松塘（文政六）明治三二）安房郡三芳村。名は元邦、字は彦之。一七才の時江戸に出て、梁川星巖の門下生になる。有名な門人、小野湖山・大沼枕山・嶺田樾江・加藤霞石などと共に漢詩を学び、二三歳の頃から主に関西へ遊歴して詩作する。明治元年に東京浅草に私塾を開いた。書幅五、色紙一。

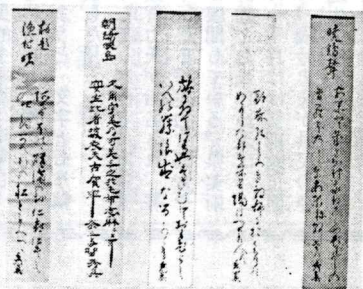
俳人では 白井鳥酔（元禄一四）明和六）

長生郡長南町。初め喜六と呼び、享保六年父の死後家をつぎ、名を喜右衛門と改め代官になった。その後事情があつて代官の役と家督を次の弟にゆずつて後見人となり、自らは俳諧を志し、近くの正善寺内に庵を結び、露柱庵と号した。のち江戸に出て佐久間（松露庵）柳居に学んだ。寛保元年（一七四一）葛飾に三斛庵を結び、牧羊人西奴の号を鳥酔と改めた。芭蕉の歿後、俳諧が低調卑俗化するなかにあつて、芭蕉の正風俳諧を伝え、関東一円に多くの弟子を持ち、天明

平（文政二）大正五）海上郡飯岡町。初め六郎といひ、のちに権園という。剣道に志して江戸に出て、千葉周作の門に入り学び、更に武者修業のため、諸国を巡歴し、紀州に入り、和歌山藩の国学者加納諸平につき歌道を学んだ。書幅五、短冊二。伊能穎則（文政三）明治一〇）成田市。書幅二、短冊二。鈴木雅之（天保三）明治四）成田市。短冊一。伊藤左千夫（元治元）大正二）成東町。書簡一。蔵真、

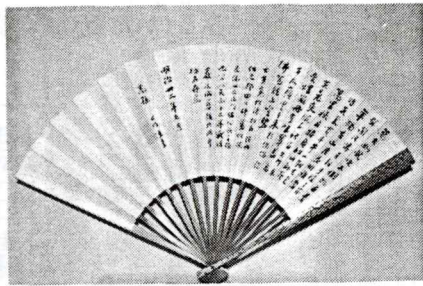
の俳諧復興を導いた。額面一、短冊一。小河原雨塘（寛延七）天保三）千葉市。短冊一。青野太第（文政一）歿）香取郡東庄町。短冊二。以上三名。儒学者では 久保木竹窓（宝暦二）文政二）佐原市。幼名を新四郎、家督を継いで太郎右衛門となり、蟠龍・竹窓と号した。幼時は香取神宮寺の一つである根本寺での吞舟人に学び、長じて諸学を研鑽し、国学・歴史・数学・仏典・神学に精通し房総屈指の学者となつた。私塾「息耕堂」を開講し、知徳合一の教育をし、子弟数百人の徳化は北総地帯から広く全国に伝わった。書幅三、屏風一。東條一堂（安永七）安政四）茂原市。名は弘といひ、江戸時代

香取秀真書



高森碎巖書
東條一堂書

也 房 総 の 書 芸 展
香 取 秀 真 書



依田学海書

の漢学者。初め皆川淇園、のち亀田鵬斎に学び、江戸に塾を開いて研学と教育に当った。官学である朱子学は仏に近いと排斥し、直接古典について学ぶべきことを強調した。そのため原典を正しく読みとること（訓古考証）に主意をそそいだ。書幅二、額面一。宇佐美清水（宝永七～安永五）夷隅郡長者町。扇面一。海保漁村（寛政一〇～慶応二）山武郡横芝町。書幅二。芳野金陵（享和二～明治一）旧葛飾郡松崎町。書幅二。田中從吾軒（文化一〇～明治三）佐倉市。書幅一。小永井小舟（文政六～明治二）佐倉市。書幅一。依田学海（天保四～

明治四二）佐倉市。書幅三、書簡二、短冊一。以上八名。学者では 木村正辞（文政三～大正二）成田市。木村家の養子となり改姓、国学を伊能穎則に和歌を寺門静軒に漢学を岡本孝則に学んだ。明治四年、文部省大助教となりアメリカ人のスコットや田中義廉らとともに高等師範学校の設立準備に尽力した。書幅二、短冊一。西村茂樹（文政二～大正二）佐倉市。書幅二、書簡一。手島精一（嘉永二～大正七）市原市菊間。書幅一。津田梅子（元治元～昭和四）佐倉市。書簡一。以上四名。

講演会にふるって参加を!!

本展覧会を理解していただく目的で左記により講演会を開催しますので、多数の方の参加を期待しています。

○日時 7月29日（土）

夏のひとときを

第2回千葉県

移動美術館へ

午後2時より
美術館普及室
○会場
○内容 「作品の解説」「花押について」
○講師 歴史研究家 佐久間洋行氏
美術館副館長 高橋 在久

本年の千葉県移動美術館は、七月十八日から七月三十日まで松戸市文化ホール、八月一日から八月二十七日まで千葉県立総南博物館で開催することとなりました。今回は本県出身で近代金工界の先駆者として活躍した香取秀真と津田信夫、千葉市在住で現在活躍中の信田洋の三氏の金工作品、及び創作の場を世界に求め、国際的にも評価の高い、瑛九、浜口陽三、深沢幸雄、池田満寿夫の四氏の版画作品を御鑑賞いただきます。

今回の出品予定作品は、次のとおりである。
香取秀真 菊文釜、及び風炉、壺、鳳凰文大花瓶、笑獅文花瓶、筋入花子香炉、六角火鉢、瓶、六角火鉢

津田信夫 銅水盤、一點玲瓏、鴨、鳳翔薰炉、子迷家鴨、北辺夜猫子、鶯、信田洋 伸びゆく湾、九曜盤、蠟銀ひさ古瓶、瑛九 よろこびB、顔A、かべ、オペラグラス、魚、浜口陽三 一九〇と一匹、テントウ虫、ざくろ、二匹の蝶、ポプラ。



池田満寿夫 スフィンクス、夜の旅、閉ざされた夜のために、飾り窓の中、出来事。

◆お問い合わせ先

松戸市文化ホール（電〇四七三―六七―七八一〇）
千葉県立総南博物館（電〇四七〇―八―二―三〇〇七）

初回の収蔵作品
目録刊行まじか

体裁 B5版。アート紙。カラー二枚。モノクロ二十一枚。

ページ数 約五十ページ
内容 五十三年三月三十一日までの間に収蔵した作品の一覧。（作品数四七三点。資料数三五〇点）

研究紀要第二号

体裁 B5版。上質紙。ページ数 約五十ページ。

内容 作家の作品等についての調査研究ならびに館運営上の諸問題について。
なお、詳細については、美術館学芸課まで。

「黒田清輝展」を顧みて

本館では、昭和五十三年度最初の特別展として「黒田清輝展」を開催した。開催期間は四月二十七日から五月二十八日までで、開催日数は二十八日間であった。

入館者数は、一五、八一人で、一日平均五六五人となり、これまでの特別展のなかでも、前年度の三月に開催した「東山魁夷展」に次ぐ多くの入館者があった。

期間中、本展に対する意見等、アンケート調査を行なった。その結果を見ると、多数



来館した大きな原因の一つとして、黒田清輝については、画集や教科書等で、良く知っており、以前から関心を寄せていたにもかかわらず、これまで、実際に黒田清輝の作品を鑑賞する機会を得なかったことがあげられるようである。また展示内容についてもさまざまな興味を持たれたようである。まず、初期から晩年までの油彩画の変遷をたどり、「湖畔」「もるる日影」等の著名な作品を通して黒田清輝の画風に接する一方、「昔語り」の下絵を展覧することによって、入念な制作過程や制作態度というのまで触れることができたこと。さらに、資料室を通して、公開されることの少なかったデッサン類、スケッチ帳、書簡、写真、イーゼル等の展示によって、人間黒田清輝を多面的にとらえることができたこと。なお資料室では、特にデッサン類に魅せられた方々が多かった。

この他、普及事業の一環として、東京国立文化財研究所美術部主任研究官の陰里鉄郎氏から、「黒田清輝と明治絵画」というテーマの講演をしていただいた。この講演会にも多数の人が参加し、熱心にメモをとられる人もいて、黒田清輝に対する理解を深めていただくことが出来たと思わ

れる。本展における入館者の関心も多岐にわたっていたが、今後も資料コーナー等を設けるなど、展示にあたっては、種々の観点から広く作家の世界をとらえられるよう工夫したいと考えている。

準備進む

特別展

「夭折の画家たち」

近代に入りヨーロッパ文化の急激な移入は、日本の社会に様々な波紋をなげかけているが、それは画壇においても例外ではなく、近代以降の絵

画の展開はかつてない激しい動きと広がりを見せている。そして、これらの絵画運動はそれぞれの時代の変化を鋭敏に反映し、感受性豊かな若き作家たちによって推進されてきたともいえる。しかし、新しい芸術の創造を目指し、熱情をかたむけながらも病魔におかされ、あるいは突然の事故に見舞われるなど苦悶のうちにその短かい生涯を閉じ

た作家もまた少なくない。

そこで今回は、これら夭折の画家たちの作品を紹介するとともに、作品を通して近代絵画の一面をみることにした。

◆会期

9月21日(木)～10月19日(木)
(9時～4時30分・月曜休館)

◆観覧料

一般300円(200)大・高生200円
(100)中・小生100円(50)

()内は団体20名以上料金

四日、今井教育長の出席を得て、第一回の協議会が開かれた。席上、教育長から各委員に辞令交付が行われ、美術館及び広く美術界への協力が依頼された。

この後、議長・副議長の選出が行われ、続いて館側より昭和五十三年度の予算・事業について、五十四年度の事業構想、美術普及棟建設計画などについて協議が交わされた。

協議会委員名

相川勝衛氏 浅見喜舟氏
遠藤健郎氏 金子量重氏
笹岡了一氏 鈴木秀一氏
鈴木民三氏 野口貞子氏
牧田 茂氏 八代 進氏

(五十音順)

53年度第1回美術館協議会開く
議長に浅見氏、副議長に鈴木(民)氏



美術普及室をご利用ください

「みる・かたる・つくる」美術の広場の充実を目指し、直接触れ合いのできる場として昨年四月より開設した「美術普及室」は、開設と同時に、多くの方々にご利用されつつ、満一年が過ぎた。

美術普及室は、美術館建設の第三期工事として計画されている美術普及棟が完成するまでの期間、現状の中でのサービスをするための普及部門となっている。

今年度も、第六展示室を利用し、展示、図書、集会、情報、四コーナーを設け、その区分の内容、活用の充実を図り、皆様に親しまれる部屋となるよう心掛けています。

各コーナーの役割

○展示コーナー
美術作品以外の参考資料を展示し、作家や作品の理解をする場である。

現在は、常設展「浅井忠とその周辺」の鑑賞資料コーナーとして、近代日本美術界の先駆者である浅井忠の關係資



料を展示し、浅井の少年時代、青年時代、ヨーロッパ留学時代、晩年の京都時代にいたる生涯を、貴重な遺品や、写真などにより紹介している。

○図書コーナー

美術に対する知識、理解を深めるための場である。

日本や世界の美術全集、美術辞典など、美術の基本図書や雑誌、さらに、本館および

他館発行の刊行物など、自由に閲覧することができ。

○集会コーナー

団体見学などのオリエンテーションや「美術を語る会」「美術館夏季大学」「美術講演会」さらに「実技講座」などの催物会場として、小規模ながらその活用は多彩である。

○情報コーナー

各地の美術館、博物館などの展覧会や催物等を紹介する場である。

壁面や書架を利用し、ポスターや美術に関するニュース誌など情報の収集・整理をして広く皆様に案内している。

以上、四つのコーナーを紹介したが、念願の美術普及棟の建設については、五十四年度完成を目指し実施設計の段階に入り、利用する方々の立場に立つて、よりよい美術活動の場とするため検討を重ねている。

なお、この美術普及室は、特別展、千葉県芸術祭の期間中は、会場の都合で縮小あるいは他の場所に移転するが、利用者の皆様のご意見、ご希望をとり入れながら「愛される美術普及室」に育てていきたいと思う。

本館では「みる・かたる・つくる」美術の広場としての活動の一環として「美術を見る眼」を養うため、日本の美術の歴史的な推移や多様化した現代美術などの理解を深める講座「美術館夏季大学」を開設している。

今年度は、専門的知識と一般教養の修得を目的として、日本近代工芸・書の流れとその時代に代表される作品の見方や様々な表現様式の理解をテーマに、併せて日本近代洋画のルーツへの紀行や美術品の取扱いと保存の仕方などを課題に開講する。

第2回美術館夏季大学

- 一、主催 千葉県立美術館
- 二、後援 千葉県立美術館 友の会
- 三、場所 千葉県立美術館 美術普及室
- 四、期間 昭和53年8月4日(金)～5日(土)
- 五、時間 午前9時～午後4時
- 六、受講料 無料(但し、テキスト代等若干の自己負担あり)

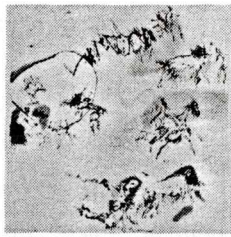
- 七、内容
- 8月4日午前 講師 千葉県立美術館副館長 高橋在久
- 課題 日本近代洋画のルーツ
- 8月4日午後 講師 大妻女子大学講師 金子量重氏
- 課題 近代工芸の歴史と見方
- 8月5日午前 講師 二松学舎大学 教授 堀江知彦氏
- 課題 書芸の歴史と見方
- 8月5日午後 講師 千葉県立美術館 館学芸課長 大木 衛
- 課題 美術品の取扱い方と保存の仕方
- 八、募集人員 百名(応募者多数の場合は抽選で決定)若干名(裕あり)
- 九、応募方法 住所・氏名 年齢・性別・電話番号を明記した往復はがきで申し込んで下さい。

新収蔵作品紹介

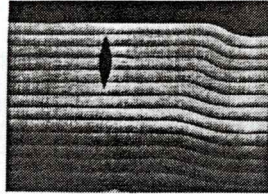
(53年4月～6月)

購入

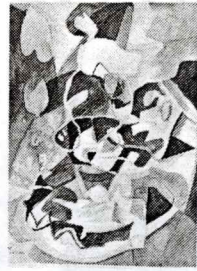
池田満寿夫作「作品」「出来事」「閉ざされた夜のために」「飾り窓の中」「スフィンクス」「夜の旅」



池田満寿夫作「出来事」



浜口陽三作「ポプラ」



池田満寿夫作「作品」

寄贈

なお、次の資料が寄贈されました。ここに厚くお礼申し上げます。

白井三郎氏より

菅谷元三郎作「母の像」

石井原氏より

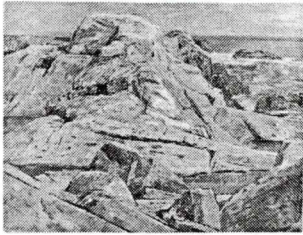
菅谷元三郎作「恩師の像」

円城寺幹樹氏より

円城寺昇作「杜」「岩」

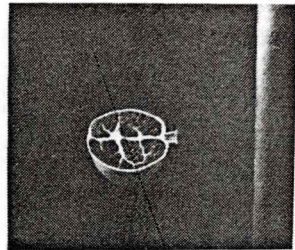
円城寺宏氏より

円城寺昇作「崖」



円城寺昇作「岩」

浜口陽三作「ざくろ」「ポプラ」「顔」「西瓜」



浜口陽三作「ざくろ」

瑛九作「鳥」

三月購入未紹介資料

木内克作「石版画三葉集」

柳原義達作「銅版画三葉集」

美の泉

深沢 幸雄



掌の中の影

深沢を変えた二つのこと。

一つは大戦での負傷であり、一つは昭和三十八年に訪れたメキシコである。負傷は、油絵から銅版画へ

移らせ、メキシコは、モノクロからカラーの世界へと導いた。

メキシコの灼熱たる太陽、荒涼たる大平原が面と線に姿をかえて、強

計画進む浅井忠像の建立

千葉県美術会は、県展三十年史と、千葉県

の生んだ、洋画界の先駆者である浅井忠の銅像建立を計画した。

美術会の呼びかけで、主として経済界・教育界・美術愛好家などのご協力を得て、県展が開催される、十月二十八日を目指して制作が進められている。

二月二十八日の第一回世話人会を含め、三回にわたる会議により、五月十

七日に、県立美術会にて、発起人会総会が開催された。

計画によると、建立地は美術館の正面玄関附近で約二、四メートルの立像が建てられることになった。

すでに募金活動が始まり、美術会員をはじめ、篤志家により寄付金が寄せられている。特にアメリカ在住のスワニーさんからも届けられたりして、協賛者が多岐に及んでいることに関係者は喜んでいる。

更に広く、美術館友の会員にも呼びかけるなど、県民運動として進めている。

お問い合わせ先

千葉県立美術館内
浅井忠像建立委員会

烈なイメージで語りかけ、幻想のリズムを奏でる。しかも比類のない技法は、彼の世界を確かなものとして行く。心の奥によどむメキシコの叫びが、苦悩がおう吐の如くしぼり出される。深沢は、山梨県で生まれ、東京美術学校で彫金を学び、銅版画は独学であるという。だが、今日までの数々の受賞は、彼の技術の確かさを物語る。現在市原市在住。

トピックス

●和気あいあいの
第一回美術を語る会

特別展「黒田清輝
展」会期中の五月二十
十日(土)に「第一回美
術を語る会」を開催
した。話題提供者は
本館学芸課長大木衛
があたり、「黒田清
輝の人と芸術について」語り
合いがなされた。特に、黒田
がヨーロッパで画家として歩
みはじめた状況など手紙・日
記等で紹介があり、さらに黒
田ゆかりの方々の話などもま



第一回美術を語る会

じえて興味深い話が交わされ
た。

●「デッサン入門講座」
(第一期)好評を得る

本年度最初の「つくる」活
動としての「デッサン入門講
座」が去る六月三日(土)、四日
(日)の二日間千葉大学教育学部
助教教授戸田健夫氏の指導のも
とに行われた。一日目は鉛筆
による石膏デッサンに取組み、
受講者の熱心な制作の成果が
発表された。二日目は、豪雨
にもかかわらず全員が出席し
静物の水彩画を行った。

鉛筆デッサンへの淡彩であ
ったが、水彩画の難しさをあ
らためて考えさせられたよう
である。

受講者と講師とのなごやか
な会話のうちに、制作のよろ
こびを得た講習会であった。

●友の会
事業拡充される

四月二十二日(土)友の会評議
員会が開かれ、本年度の事業
計画が決定した。それによる
と会報「しおさい」の発行が
年五回となり、実技講座も年
二十回が計画されている。ま
た「美術鑑賞の旅」の充実も
めざしている。

詳細については、美術館内
友の会事務局までお問い合わ
せください。

●五月晴れに
めぐまれた見学会

友の会との共催事業として
例年行われている「美術鑑賞
パスの旅」は、五月十四日(日)
に九十名が参加し行われた。
幸い天候にも恵まれ、芝山は
にわ博物館・千葉県立房総風
土記の丘など、古代遺跡を見
学しながら房総をしのぶ一日
を過ごした。

伝言板

●実技講座の申し込みは、往
復はがきでお願いします。住
所・氏名に電話番号を必ず書
いてください。せっかく受講
していただくことになっても
連絡できない場合があります
ので、よろしく願います。

●「談話コーナー」への投書
をお待ちしております。館の
展覧会や、講座等に希望する
こと、あるいは意見など何で
も結構です。

●秋に友の会主催の「美術鑑
賞の旅」を計画しています。
詳細は次号でお知らせいたし
ます。

談話コーナー

デッサン入門生の 手紙から

隈本 絢子 (48歳)

千葉市稲毛海岸5-1の28
稲毛カトラリー00六

前略、六月三・四日のデ
ッサン入門講座に出席させ
て頂いた者でございます。

此のたびは大変に貴重な
体験をさせて頂きまして、
本当に有難うございました。

私は中学校の絵の時間以外
(もう二十年も前の事で
すが)絵を描いた事はあり
ませんでしたが、展覧会等で
素晴らしい絵を拝見するた
びに、自分でもいつか描いて
みたいと思う時がありまし
た。でもどんな風にして描
けばよいのか、とても気が
重く、なかなか描く事が出
来ませんでした。今回の私
の絵の出来栄は小学生の
絵でしたが戸田先生の熱心
な御指導のおかげでこれ
きりやめようとは思わな
くなりました。その事を大

変うれしく思います。

美術館の方々も大変な御
苦勞をなさった事と思いま
す。どうぞこれからも皆様
お元気で、お仕事に頑張っ
て下さい。遅くなりましたが
が御礼まで。



六月のよく晴れた一日、
市内のある小学校が、社会
科見学の一環として、美術
館を見学に来ました。

芝生のうえで、思い思い
にお弁当をひろげている様
子は、二十数年前の私達を
思い出させてくれます。

私達がそうであったと同
じように、社会科見学は期
待が大きいものです。皆さ
んの期待や夢にこたえるべ
く今後も、活動の充実をは
かりながら、対処していき
たいと思います。

各種講座あんない

第三回デッサン入門講座

この講座は、初心者を対象に石膏像(首像)をモデルにして、形や明暗のとらえ方、質感や量感の把握などの絵画表現の基礎的な学習を目的としています。

期日 9月9日(土)～10日(日)
時間 午前10時～午後4時
会場 千葉県立美術館研究
工作室
会費 無料(但し、材料費
自己負担)

講師 千葉大学教授
海老沢敏夫氏
申し込み
講座名・住所・氏名
・年齢・電話番号を
明記した往復はがき
で申し込んでくださ
い。

メ切は、8月26日。

(当日の消印有効)で定員四十名をこえた場合は抽選で決定。なお、詳細については、学芸課普及広報班におたずねください。

七宝焼講習会

ペンダントやブローチなどのアクセサリー、また、室内

装飾品等の制作技法の習得を通して、手づくりの楽しさ、使う喜びを味わうことのできる七宝焼の基礎講座を開催する予定です。詳細は次号に。

期日 12月2日(土)～3日(日)

第二回美術を語る会

テーマ「近代日本の版画」
深沢幸雄氏(版画家・多摩美術大学講師)を迎えて、浮世絵木版画から今日にいたる近代日本の版画の歴史や技法等の理解を深める談話会です。併せて、中南米のマヤ・メキシコ文化のスライド映写・解説を行います。
自由に、ご参加下さい。
7月22日(土)2時より
美術普及室

団体展

(7月～10月)

▽千葉美術シンポジウム& 展

7・4～7・16

▽千葉盲学校陶芸展

7・18～7・23

▽行動美術千葉展

7・25～7・30

▽第4回児童合同美術展

▽千葉市水墨画同好会連合会 展 8・1～8・13 無料

▽第6回「明るく楽しい家庭づくり」ホスター・標語展 8・8～8・13 無料

▽千葉市アマチュア美術クラブ展 8・15～8・20 無料

▽日本習字千葉県書道展 8・22～8・27 無料

▽第8回いてふ彫刻展 8・22～9・3 無料

▽千葉市教職員美術展 8・29～9・3 無料

▽問われる表現展 9・5～9・10 無料

▽文化書道千葉県連合会書道展 9・5～9・10 無料

▽静雅書道会千葉地区展 9・5～9・10 無料

▽第7回写真千葉県展 9・5～9・17 無料

▽第18回白扇書道会展 9・12～9・17 無料

▽千葉78展 9・19～10・1 無料

▽第25回千葉県勤労者美術展 10・3～10・8 無料

▽第8回新構造千葉支部展 10・3～10・8 無料

▽第10回ファンシー展 10・3～10・8 無料

来館者

4月 26日 福井県立美術館
5月 5日 黒田清輝展オープニング式のため、今井県教育長、鈴木千葉市教育委員長、長谷川千葉市教育長、伊藤東京国立文化財研究所長をはじめ、関係者約50名
5月 30日 沼田県副知事
5月 28日 相川県議会議員
5月 28日 埼玉県立博物館
5月 28日 関野前東京国立文化財研究所長
5月 28日 山村県議会議員
5月 28日 今井県教育長
5月 28日 吉原県議会議員
5月 28日 菊間佐倉市長
5月 28日 鈴木県議会議員
5月 28日 横瀬文化庁記念物課長
5月 28日 市原県教育委員長
5月 28日 東平県教育委員
5月 28日 長谷川成田市長
5月 28日 菊間佐倉市長
5月 28日 茨城県教育委員会
5月 28日 松永埼玉県副知事
5月 28日 須田県議会議員
5月 28日 埼玉県民室長
5月 28日 一行六名

日記抄

4月 21日 山梨県議会教育厚生委員会
4月 21日 沼津市文化財審議委員 長崎県議会議長
4月 22日 浜松市美術館長 赤馬県管財課長 一行
4月 27日 北海道立近代美術館
4月 10日 辞令交付
4月 10日 浅井忠像建立世話人会
4月 21日 県立美術館・博物館協議会
4月 22日 友の会総会 美術講演会(桜田氏)
4月 26日 黒田清輝展開会式
4月 27日 黒田清輝展オープニング
4月 6日 講演会「黒田清輝と明治絵画」(陰里氏)
4月 14日 友の会見学旅行
4月 17日 浅井忠像建立発起人会
4月 18日 県博物館協会役員会
4月 20日 第一回美術を語る会
4月 25日 県立博物館協会総会
4月 3日 デッサン入門講座
4月 6日 浅井忠像建立委員会
4月 20日 監査委員監査
4月 22日 美術普及棟建設合同委員会
4月 29日 美術普及棟建設合同委員会
4月 30日 県立美術館・博物館館長会議